

担当者	山陽学園大学
	地域マネジメント学部
	講師 米田 瑞生
	086-901-0592 (ダイヤルイン) yoneda_mizuki@sguc.ac.jp

令和6年4月5日配信

「海がないのに漁火?!」山陽学園大学から「漁火光柱」を観測

山陽学園大学地域マネジメント学部、米田瑞生研究室では、夜空の現象、特に流星を観測するための、高感度カメラを開発しています。このカメラで流星の試験観測を行っていた際に、「漁火光柱 (いさりびこうちゅう)」と呼ばれる大変珍しい現象が観測されましたのでお知らせします。

「漁火光柱」は、冬の日本海側の地域で、北の空に観測されることがある現象で、夜間のイカ釣り漁船などが発する光が大気中の氷粒子に反射することで、夜間の空に「光柱」として観測されることからそう呼ばれています。

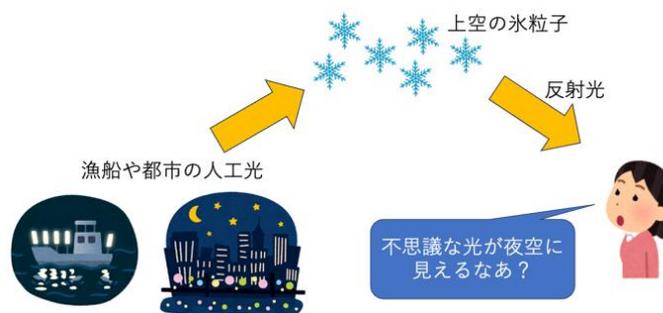
今回、本学で観測された「漁火光柱」は、光源までの距離・位置を推定したところ、岡山市から北西に約 50km の吉備中央町周辺の町灯りが光源であることが分かりました。

「漁火光柱」自体が、光源と観測点の間の空に、氷粒子があり、風が弱いなど、様々な条件が整わなければ見られない希少な現象であり、特に岡山市のような夜空が明るい場所で観測されることは大変珍しいことです。

動画へのリンク：<https://youtu.be/NjFAaUAVtO4>



(写真1) 山陽学園大学から3月20日に観測された「漁火光柱」。



(図1) 漁火光柱が発生する様子。